

全国大会出場 おめでとうございます (10月～11月開催分)

第14回全国障害者スポーツ大会

「長崎がんばらんば大会」

卓球競技 知的障害 青年男子の部

社会福祉法人 清風会

丹後 亮

第69回国民体育大会

「長崎がんばらんば国体」

アーチェリー競技 少年少女の部

広島県立吉田高等学校

喜連川 朱音

男子ハンドボール 成年男子の部

湧永製菓株式会社

ハンドボール部 レオリック

志水 孝行、仁平 昌利、野村 浩輝、新名 亮介、稲毛 隆人、小川 航世、中浦 成崇、今井 昭仁、佐藤 智仁、金子 貴之、樋口 睦、伊藤 浩太郎

カヌー競技 成年男子 K-1の部

八千代カヌークラブ

小又 千春

サッカー競技 少年男子の部

広島県立吉田高等学校

伊藤 隆介、堤 耕一、イヨハ 理、ヘンリー、中川 如哉、力安 祥伍、立花 響、山根 永遠、宮本 一貴、藤原 慶人

第31回全日本シニアパドミントン選手権大会

女子55歳以上シングルの部

安芸高田市体育協会 (吉田地区)

体育協会)

山本 清子



市長コラム

ワイド版 第75回

首相所信表明「地方創生」に期待
政府は、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府が「一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することができるよう、「まち・ひと・しごと創生本部」を新設し、9月の改造内閣では、「地方創生担当大臣」を任命しました。
国民が誇りを持ち、将来に夢や希望を持てる、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを進めるため、次の3つの基本的視点を掲げ、魅力あふれる地方を創生し、地方への人の流れをつくり、また、経済の回復を全国で実感できることをめざすとしていきます。

①若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
②東京一極集中の歯止め
③地域の特性に即した地域課題の解決
また、先般召集された第187回臨時国会の衆参本会議における所信表明演説で安倍首相は、今国会を「地方創生国会」と位置づけ、「景気対策」を前提に、「地方創生」「女性の活躍」等の重点的な取り組み方針を次のとおり示されました。

地方が活気づくためには、「若者」が我が国の深刻化する少子高齢化社会の危機に「歯止めをかける鍵」である。
また、「若者」にとって魅力ある地方のまちづくりのため、これまでとは次元の異なる大胆な政策を実行する。従来の一度失敗すると全てを失う個人補償の偏重の慣行を断ち切る制度を確立すると共に、地域の個性を、最大限生かした発想の転換が必要。若者が将来に夢や希望を抱き、自分の生まれた場所でチャレンジする事が大切であり、若者にとって魅力ある町づくり・人づくり・仕事づくりを進め、若者がチャレンジしやすい環境づくりを整える。その為に、融資基準の見直し等の地方創生関連法案を成立させ、若者の起業を後押しする。

減らそう犯罪 ⑧0 特殊詐欺ますます多発!

昨年、県内における特殊詐欺は256件、総額10億円超の被害でしたが、今年は昨年を上回るペースで被害が多発しています。
被害者は、詐欺電話の事を知っているのに、実際にかかった時、冷静さを失い相手の言いなりになっています。

○電話の相手が本物か、必ず確認してください。
○電話勧誘に乗らないでください。
○おかしいと感じたら、電話を切って、すぐ誰かに相談して下さい。
「現金送れ」は詐欺ですよ!

安芸高田警察署交通ミニコーナー H26.9末現在
●平成26年交通事故発生状況(年間累計) 安芸高田警察署管内

区分	本年	前年	前年同期比増減数
人身事故	90件	99件	-9件
死者数	0人	3人	-3人
負傷者数	138人	117人	+21人

●事故の形態では
・車両の単独事故
・駐車場から道路に出た際における出会い頭事故
・交差点における追突事故
が大半を占めております。
～ 速度を厳守し、安全確認の徹底を! ～
○反射材を身につけましょう!
・日の入りが早くなり、暗い時間が長くなります。
靴や鞆、衣類など、何か一つでも反射材を身につけましょう。
・自動車や自転車のドライバーは、早めのライト点灯を!
また、自動車の運転者は対向車や前車がない場合は、上向きライトで運転しましょう。
～ 安全力がアップ ※広島県では、「ライト 点灯運動」実施中

行楽の時期となり交通量も増加傾向にあります。緊張感を持った運転に努めましょう。
○管内の交通事故の特徴
●事故発生の総数は減少するも、高齢者が関係する事故が5割以上を占めています。

違う文化から日本を考える

人をその気にさせる「民族」
私が専門の文化人類学では「民族」とは「民族」という考えがあります。それは「民族」というと、日本人がここにいて、反論したくなると思います。民族は、同地域に住み、同じ言語を話し、同じ歴史を経験し、同じ価値観や気持ちを持つ、昔から連続と続く集団だと一般的に考えられています。しかしこの考え方は現在否定されています。
例えば、「日本」という意識が一般的に広がったのは明治以降と言われています。そうすると、「日本人」はここ150年ぐらいの存在となります。みなさんは飛鳥時代からと思ってもいいかもしれませんが、日本語という共通の言葉は今の日本を覆ってはいませんでした。今の時代でも、同じ言語を話すからと言って、同じ価値観や気持ちを持つのは難しいです。世代や階層、住む地域で違います。共通語は苦手で方言ばかりの人もいます。
むしろ、今は「民族」は人を「同じ仲間と思わせる」範ちゅうと考えられています。普段は「日本人」を意識していません。例えば、普段ご飯を食べる時に「日本人だ」と思っただけでいいんです。しかし、ワールドカップの試合の時、外国に行った時、国際政治でもめたとき、「日本人」を意識し、その意識を持たせるわけ

です。
範ちゅうがゆえに曖昧なところが出てきます。日系ブラジル人はある時に日本人とされたり、もう「日本人」でもないともされます。外国の人でも王貞治さん(中華民国籍)は「日本人」とも思われています。本人の思いも大事ですが、周囲がどう見るかも関係します。状況に応じて都合よく、「民族」は使われるわけですが、違いのある人々をひとつにまとめるのは難しいです。「民族」が持つ不思議な力だと私は思っています。
(文・県立広島大学 上水流 久彦 講師)

《お詫びと訂正》
広報あきたかた2012(H24)年7月号から11月号、および2013(H25)年3月号から2014(H26)年9月号の計13回に渡って「世界の文化」のコーナーに掲載していたイラストの作者のお名前を誤って掲載をしていました。作者の方にお詫びを申し上げます。また、作者の意図と違うイラスト使用があったことについては、作者の方に重ねてお詫びを申し上げます。
(誤) ロナルド・スチュアート
(正) ロナルド・スチュワート